

(様式2)

令和3年度 檜原村立檜原学園檜原中学校 第1学年 授業改善プラン

1 全国学力・学習状況調査、檜原村学力調査等の結果を踏まえた課題

国語	漢字や言葉の使い方に関する知識・技能は概ね定着しているといえる。しかし、文章を正確に理解したり適切に表現したりすることに課題がある生徒が多く、定着させた知識をうまく活用できていない。小学校で学習した内容を生かした取り組みを通し、言語感覚をより豊かにしていくことが必要であると考えます。
社会	学習意欲は全員高く、積極的に授業に参加している。小学校段階での学習の内容についても定着している。社会科の学習に対する知識・技能の定着については、個人差が出ているので個別に支援することで補っていく。社会科の見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる必要があると考えます。
数学	探究心を持って日々の授業に取り組んでいる。既習内容を生活の中や、他の単元に活かそうとする生徒が多く、学習意欲の高さが鑑みられる。基礎的な学力の定着が図れている人も多くいる。ただ、習熟度に個人差が見られるので、習熟度別学習を通して個に応じた指導を行い、基礎学力の定着を図っていく必要がある。
理科	小学校で学んできた理科の内容が定着している人とそうでない人とで分かれている。授業内では、あまり気にならないが、調査等で点数化すると課題として明るみに出てくる。学習した内容を頭の中で理解して、その後、表現するところまでが全体的な課題。定着が追いついていない生徒は、既習内容の理解度を上げていくことが課題だと考えられる。
外国語	語彙や文法の理解はよくできている。しかし、前単元で学習した内容との関連や比較を問われると理解できていない場面がある。語彙を正しく書くことについても課題がある。表現することについては、インタビューの場面で自分なりの表現を行おうとしている場面も見られるが、まだ十分とはいえない状況である。

2 各教科等の具体的な授業改善策

□育成を目指す資質・能力 (①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等)

■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 (①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度)

	□育成を目指す資質・能力	■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	①社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ②筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かな物にすることができるようにする。 ③言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	①・漢字を覚えるだけではなく、使うこと、身に付けることに重点を置いた活動を多く取り入れる。また、辞書学習を多く取り入れ、文章中の語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意させ、語句の確実な習得を目指す。 ・古典教材を使用し、何度も音読をさせ、我が国の言語文化に親しんだり理解したりさせるようにする。 ②・スピーチや話し合い活動、作文などを書く活動を通し、聞き手(読み手)にわかりやすく伝わるような表現の工夫について考えさせる機会を増やす。 ・文章を読む活動では、要旨を把握すること、描写を基に捉えることを確実にし、内容の理解を正しく行えるよう指導する。 ③読書活動の単元を各学期に一回以上行ったり、参考図書を紹介を単元ごとに行ったりすることで、進んで読書をする態度を育てる。

(様式2)

社会	<input type="checkbox"/> 育成を目指す資質・能力	<b>■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</b>
	①世界や我が国の国土と歴史に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ②社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。	①小テストや単元テストを単元ごとに設定し、計画的に学習に取り組ませ、知識の定着を図る。授業の際には、始めに学習の内容と学習課題を確認したうえで、最後に振り返りを行うことで学習内容の理解を図る。また実際の生活を想定した課題を用意して、より実生活に沿った問いに取り組ませ、社会的な技能を身に付けさせる。また何度も繰り返し取り組ませ、技能を定着させる。 ②知識・技能を身に付けさせ、それらを結びつけて、社会的事象を考察したり、説明したりできるようにする。そのために思考ツール等を使い、生徒の考え方の整理を行った上で表現させられるようにする。 ③単元を貫く問いを設定する際、教師が設定するのではなく、生徒たちがその単元への疑問を抱き設定できるようにする。そして、その問いに対する答えを見つけられるように支援する。

数学	<input type="checkbox"/> 育成を目指す資質・能力	<b>■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</b>
	①数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学的に表現・処理したりする技能を身に付けようとしている。 ②数学を活用して事象を論理的に考察する力、簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ③数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養う。	① 知識を暗記させるのではなく意味や必要性についてしっかりと理解させ、既習の知識を他の単元と関連付けられるようにする。また、教具やICT機器などを活用することで視覚的にも理解できるような工夫を行っていく。 ② 途中式を書かせる問題など、筋道を立てて考えさせ、自分の考えを他者に説明させる機会を多く取っていく。 ③身の回りに関係している数学の例を取り上げ、数学を身近なものと感じさせることによって、興味・関心を抱かせる。また、数学的活動などを通して日常生活を数理的に捉えさせ、問題を解決させていく。

理科	<input type="checkbox"/> 育成を目指す資質・能力	<b>■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</b>
	①自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ②観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 ③自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。	①実験操作、計算など、時間をかけて説明をしたり、問題演習を行ったりして、知識の定着を図っていく。さらに、実験・観察を行うのが難しいもの(生きた動物の様子など)は、一人一台のタブレットを使って、映像や画像で視覚的に学習し、理解が深まるようにしていく。 ②観察・実験した後に、結果をまとめるだけでなく、その結果からわかることは何なのかを必ず考察させる。考察の際には、授業内で学んだ言葉などを正確に使い、表現できるようにということを意識させて、書かせる。 ③観察・実験、問題演習や考察の内容などを総括して、粘り強く最後まで探求し続けようとしているかどうかを評価し、粘り強さを見せられるように、スモールステップで考えられるようにヒントを与えながら探求させる。

(様式2)

	□育成を目指す資質・能力	■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<p>①音楽の多様性について理解するとともに、音楽表現をするために必要な基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>②評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p> <p>③主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を養う。</p>	<p>①基礎基本の定着を目的に、満点が取れるまで繰り返し実施。調べ学習とその発表に取り組み、音楽の多様性や背景を理解させて表現に繋げる活動をさせる。 評定Cの生徒への個別指導も行っていく。</p> <p>②自分なりに音楽のよさを味わって聴くことに迫るために、鑑賞教材のイメージ、その根拠を伝え合う言語活動を取り入れる。</p> <p>③個の活動(教材を一人で歌唱・演奏したり・鑑賞する)や、集団の活動(合唱や合奏のパート別練習・創意工夫した表現を考える・テーマ別のグループ学習をさせる)など、様々な学習方法を通して、主体的・協働的な学習場面を設けて、音楽に楽しめるよう取り組みを進めさせる。</p>

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
美術	<p>①対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。</p> <p>②自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。</p> <p>③楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</p>	<p>①身近な生活の中で生まれる疑問や課題を提示し、何をどう学ぶのか、なぜ学ぶのか、目的やゴールを示す。知識・技能を活かして思考・判断・表現するための意欲を持続させる手立てとして、「今日はこれが理解できた」「次回はこの点について工夫したい」という成就感を持たせられるようにする。毎時間のふり返りカード・鑑賞レポートを活用して知識の定着を図る。ICT 機器は教員だけではなく、生徒自身が「学習を補う教具」として常に使える状態にしておく。</p> <p>②「制作・鑑賞・発想」の美的体験を基板として、第1学年では主として「形や色」「作品に込められた思い」に関して鑑賞する。また、生徒の順調な学びを持続させる足場かけとして、ワークシートの種類を複数用意しておき、生徒が自発的に自分の個人目標達成に応じて選べるようにする。作品を展示する際は、他学年生徒や教員から見えやすい位置に展示することで、相互にフィードバックが受け取れるよう配慮する。</p> <p>③生徒がこれまで経験して得てきた知識・技能、思考力・判断力・表現力が結びつくようなヒントや題材を学年ごとに1、2課題程度用意し、自信を持てるようなカリキュラムを組む。学習の目標を示す際は、題材計画や授業実数も明確に提示する中で、「B目標を達成するなら例えばいつまでに下絵を完成する、微調整する時間をどのくらい残す」などというような、プランニング能力とモニタリング能力を育成するために、「誰がどのように学んでいるか」を板書する。</p>

(様式2)

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
保健体育	<p>①各種の運動の特性に応じた技能及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技術を身に付けるようにする。</p> <p>②運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>③生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>	<p>①授業のねらいを明確にして、生徒自らが見通しをもって粘り強く取り組めるとともに、本時で獲得させたい力を実感できるようにする。</p> <p>②学習カード等による振り返り活動を通して、自己の課題発見と課題解決の意識を高めていく。</p> <p>②ペア学習や話し合い活動を通して、お互いの考えや意見を交わし合いながら、学び合えるような場をつくっていく。</p> <p>③ICT を活用し技能を視覚的に捉えさせ、動きのイメージをもたせたり、自己の動きと比較したりしながら、知識・技能獲得のための学習意欲を高める。</p>

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
技術	<p>①生活や社会で利用されている材料と加工、生物育成の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。</p> <p>②生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>③よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>	<p>①製図の授業では、PowerPoint のアニメーションを活用し、等角図と第三角法による正投影図の書き方をいつでも確認できるようにする。</p> <p>②技能を身に付けるための製作品づくりを行うことで、ものづくりによる問題解決で、生徒が自主的に計画を立て、作業に取り組める工夫をする。</p> <p>②設計では、3D-CAD を活用し、視覚的に製作品のイメージを捉えられる工夫をする。</p> <p>②安全に十分配慮し、さまざまな道具や機械に触れさせることで、それぞれの加工方法のメリット・デメリットを考え、問題解決の過程で自ら加工方法を選択できる力を養う。</p> <p>③振り返りシートの活用を充実させることで、自らの作業や学習を調整する力や、見通しをもって、粘り強く取り組む態度の育成につなげる。</p> <p>③振り返りシートや作業の記録に ICT 機器を活用することで、学校でも家庭でも確認ができるように工夫する。</p>

(様式2)

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<p>①衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。</p> <p>②生活の中で家庭科に関わる問題を見だし問題解決に向かう力を養う。</p> <p>③家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする力と態度を養う。</p>	<p>①生活に関する基礎的、基本的な知識及び技術を身に付け、生活と技能のかかわりについて理解させる。</p> <p>②レポート作成やディスカッションを行い、発表する力を身に付ける。製作活動や調理実習等の活動を通し、基礎的な技術を身に付けるとともに、工夫創造する力を養う。</p> <p>③毎時間の目標を明確に掲示し、課題をもって主体的に取り組む姿勢をもたせる。普段の生活に関わりの深い事柄を例にとり食品や調理に関して興味をもたせる。製作活動等において、完成の見通しを持たせるとともに、個別に作業の説明や声かけを行う。</p>

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
外国語	<p>①英語のきまりや特徴について理解し、実際のコミュニケーションの中での話題について内容を捉えたり伝えたりできる。</p> <p>②コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、話題について要点を捉えたり、伝えたりできる。</p> <p>③外国語の背景にある文化への理解を深め、主体的に学習する。</p>	<p>①音声による理解を最初に行い、簡単なコミュニケーション活動を通じてその単元の言語材料について学ぶことを基本に行っていく。その際に既に習った文法や語彙についても取り上げて、復習をしながら定着を図っていく。</p> <p>②基本となる語彙や文法を使用しながら表現活動を行い、各生徒の状況に応じて、自分の気持ちや意見をさらに付け加えていけるよう支援する。各単元後半の表現活動の授業や、スピーチ、作文の単元を中心に指導していく。</p> <p>③②の活動を行っている際に、要領を得ずに、どのように活動を進めていか分かっていない場面があるので、個別に声をかけ助言を行っていく。</p>

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別の教科 道徳	<p>よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で扱う内容に見通しをもって、内容同士のつながりを意識した指導をする。</li> <li>毎授業、参考資料や補足資料を紹介することで、より考えを深めることにつなげる。</li> <li>導入に今の自分の状況を振り返る発問、まとめにこれからの自己の生き方を考える発問をすることで、授業を通して自身の変容を自覚できる工夫をする。</li> <li>年間3回のいじめをテーマにした授業では、内容を精査し、さまざまな視点からいじめについて考えられるように工夫する。</li> </ul>

(様式2)

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<p>①探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能。状況に応じて選択し適用する力。</p> <p>②体験したり、調べたりしたことをまとめ、口頭や文章などの様々な方法で聞く人に伝わるように表現することができる。</p> <p>③課題の追究を通して、より良く生きるために、自分にできることを考え、実践しようとしている。</p>	<p>①自分の課題に対して解決策を考えられるように、インターネットをより一層活用していく。その際、課題に必要な情報であるかを見極めながら取り組ませていく。</p> <p>②相手に伝わりやすい表現や表記の仕方について考える時間をとりながら、学習した内容をまとめさせていく。</p> <p>③自身の身の回りのできることや将来への展望につなげながら活動させていく。特に振り返りを行う場面ではそれらを意識させて、まとめ作業へとつなげていく。</p>

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動(学級活動)	<p>①多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動をする上で必要となることを理解し、行動の仕方を身に付けている。</p> <p>②集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることを実践している。</p> <p>③自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。</p>	<p>①自分の価値観や得意なことや不得意なことを発表し合うことで、多様な価値観や特性をもった他者と生活していることに気づかせる。</p> <p>①他教科や学校行事との関連を意識し、個人でできないことも集団になるとできることがあることや、集団活動に必要な心構えやマナーを考えさせる。</p> <p>②行事の企画やきまりの検討を通し、集団と自己の生活との折り合いをつけ、最適化する活動をする。</p> <p>③定期的な振り返りを通して、学校生活だけではなく、社会における生活及び人間関係をよりよく形成するための、生き方について考える。</p>

(様式2)

令和3年度 檜原村立檜原学園檜原中学校 第2学年 授業改善プラン

1 全国学力・学習状況調査、檜原村学力調査等の結果を踏まえた課題

国語	意欲をもって学習に取り組んでいるため、文章の読解力や、自分の考えを表現する力などは着実に定着している。しかし、表記の誤字・脱字等が多いことや、語彙が少ないことから、全体的に言葉への興味・関心は低い。言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり、問い直したりして言語感覚を豊かにすることが必要である。
社会	学習意欲は全員高く、積極的に授業に参加している。これまでの学習の内容を質問しても正答がほぼ返ってくるくらいこれまでの学習が定着している。暗記することへの抵抗感を示す生徒もいたが、小テスト等に取り組ませると、8割以上正答の生徒がほとんどである。
数学	探究心を持って授業に取り組んでおり、学習意欲が高い。計算力はあるがケアレスミスが多く目立つ。日々の授業から、一つ一つの問題を丁寧に解かせ、自分の解いた結果を見直す習慣をつけていく。また、文章を読み解く力が弱いのでポイントを押さえながら文章を読ませることを習慣付けさせる必要がある。
理科	理科に対する興味関心が高く、周りの友達と協同的な学びにより、内容を深めることができる。しかし、調査等で点数化すると授業で見られる様子とは違う点数になる。そのため、学習した内容を頭の中で理解して、その後、表現するところまでが全体的な課題である。また、問題演習をくり返すことも調査等の点数を上げるには必要となってくると考えられる。
外国語	英語を使い表現することについてはよくできている。また自分なりの表現を試みる姿勢も見られる。一方で基本的な文の構成に対する知識に関しては課題がある。基本的な単語のスペルや語順について定着を図っていく必要がある。領域別でみると、聞くこと、書くことについてはできているが、読むことについては課題があった。先述の基本的な知識を踏まえた上で、長文を読み慣れる、文章の中から必要な情報を読み取る力を伸ばしていく必要がある。

2 各教科等の具体的な授業改善策

□育成を目指す資質・能力 (①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等)

■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 (①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度)

	□育成を目指す資質・能力	■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	①社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ②論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ③言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	①・漢字を覚えるだけではなく、使うこと、身に付けることに重点を置いた活動を多く取り入れる。また、辞書学習を多く取り入れ、文章中の語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意させ、語句の確実な習得を目指す。 ・古典教材を使用し、何度も音読をさせ、我が国の言語文化に親しんだり理解したりさせるようにする。 ②・スピーチや話し合い活動、作文などを書く活動を通し、聞き手(読み手)にわかりやすく伝わるような表現の工夫について考えさせる機会を増やす。その際に、生徒同士で文章を読み合い、自ら誤字脱字等に気づかせ、直すことができる能力を育てる。 ・文章を読む活動では、要旨を把握すること、描写を基に捉えることを確実にし、内容の理解を正しく行えるよう指導する。 ③読書活動の単元を各学期に一回以上行ったり、参考図書を紹介を単元ごとに行ったりすることで、進んで読書をする態度を育てる。また、言葉の意味や働き、使い方等に注目させ、言葉への自覚を高め、日常的に我が国の言語文化を大切にする態度を育てる。

(様式2)

	□育成を目指す資質・能力	■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<p>①世界や我が国の国土と歴史に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>	<p>①小テストや単元テストを単元ごとに設定し、計画的に学習に取り組ませ、知識の定着を図る。授業の際には、始めに学習の内容と学習課題を確認したうえで、最後に振り返りを行うことで学習内容の理解を図る。また実際の生活を想定した課題を用意して、より実生活に沿った問いに取り組ませ、社会的な技能を身に付けさせる。また何度も繰り返し取り組ませ、技能を定着させる。1学年の時に学んだ内容も振り返り活用しながら、これからの学習内容との共通点や相違点を見つけさせる。</p> <p>②知識・技能を身に付けさせ、それらを結びつけて、社会的事象を考察したり、説明したりできるようにする。そのために思考ツール等を使い、生徒の考え方の整理を行った上で表現させられるようにする。</p> <p>③単元を貫く問いを設定する際、教師が設定するのではなく、生徒たちがその単元への疑問を抱き設定できるようにする。そして、その問いに対する答えを見つけられるように支援する。</p>

	□育成を目指す資質・能力	■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
数学	<p>①数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学的に表現・処理したりする技能を身に付けようとしている。</p> <p>②数学を活用して事象を論理的に考察する力、簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>③数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養う。</p>	<p>③知識を暗記させるのではなく意味や必要性についてしっかりと理解させ、既習の知識を他の単元と関連付けられるようにする。また、教具やICT機器などを活用することで視覚的にも理解できるような工夫を行っていく。</p> <p>④途中式を書かせる問題や証明問題などを筋道を立てて考えさせ、自分の考えを他者に説明させる機会を多く取っていく。</p> <p>③具体的に生活の中で数学がどのようなことなら活用されているのか考え、数学を身近なものとして捉えさせることによって興味・関心を抱かせる。また、数学的活動などを通して日常生活を数理的に捉えさせ、問題を解決させていく。</p>

	□育成を目指す資質・能力	■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<p>①自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>②観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。</p> <p>③自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。</p>	<p>①演示実験だけでなく、生徒自らが五感を使って、実験に取り組めるように安全に配慮して、実験を行わせる。</p> <p>②観察・実験した後に、結果をまとめる際には、一人一台のタブレットを活用して、グラフを作成したりすることで、データの活用方法について理解を深めていく。</p> <p>③観察・実験、問題演習や考察の内容などを総括して、粘り強く最後まで探求し続けようとしているかどうかを評価する。特に、2年生では、グラフの作成などで1年生よりも難易度の高い内容が豊富に出てくるので、その際に粘り強さを引き出せるように、順序立てて授業進めていく。</p>

(様式2)

	□育成を目指す資質・能力	■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<p>①音楽の構造や背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現に必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>②曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p> <p>③主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験しながら音楽文化に親しんでいく態度を養う。</p>	<p>①基礎基本の定着を目的に小テストを繰り返し実施。調べ学習とその発表に取り組みせ、音楽の多様性や背景などを理解させた上で、創意工夫を生かした表現に繋げる活動を行っていく。</p> <p>②③個の活動や、集団の活動などの学習方法を通して、主体的・協働的な学習場面を設けて、音楽を楽しめるよう工夫していく。曲にふさわしい音楽表現や音楽の美しさを味わって聴くことができるよう、評価したことの伝え合いを行う。</p> <p>また、作曲家の生まれた国の文化や、背景の理解の手立てとして調べ学習の発表とDVDの活用など、音楽文化に親しんでいけるよう指導していく。</p>

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
美術	<p>①対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>②自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</p>	<p>①「檜原の新しいゆるキャラを考える」を題材とし、地域の特産とキャラクターデザインの両面から思考し、深掘りすることで、「何も挑戦できるものがなかった」ということがないようなカリキュラム構造にする。また鑑賞では、主として「表現方法と表現の意図」「歴史的価値」「鑑賞活動から得た自分の思い」のを生徒同士の対話により導く形をとり、思考力や表現力の伸張を図る。ICT機器は教員だけではなく、生徒自身が「学習を補う教具」として常に使える状態にしておく。</p> <p>②1年次で経た学習の発展となるような疑問や課題を提示し、デザインや美術作品を通して、より美的体験のサイクル(鑑賞・制作・批評)を深めていく。そのために、抽象表現作品にふれさせ、自由かつ意図を持ったな色と形の配置を考える視点を持たせ、具象表現からのステップアップを図る。</p> <p>③作者の工夫や努力の過程を学ばせ、スクラップアンドビルド(創造と破壊)に挑戦できる精神的土台を築けるようにする。学習環境の工夫として、生徒が一人で熟考する机や、誰かと一緒に考えたり助け合えたりできる机配置を事前に用意する。</p>

(様式2)

保健体育	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>①各種の運動の特性に応じた技能及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技術を身に付けるようにする。</p> <p>②運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>③生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>	<p>①授業のねらいを明確にして、生徒自らが見通しをもって粘り強く取り組めるとともに、本時で獲得させたい力を実感できるようにする。</p> <p>②学習カード等による振り返り活動を通して、自己の課題発見と課題解決の意識を高めていく。</p> <p>②ペア学習や話し合い活動を通して、お互いの考えや意見を交わし合いながら、学び合えるような場をつくっていく。</p> <p>③ICT を活用し技能を視覚的に捉えさせ、動きのイメージをもたせたり、自己の動きと比較したりしながら、知識・技能獲得のための学習意欲を高める。</p>

技術	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>①生活や社会で利用されている生物育成、エネルギー変換、情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。</p> <p>②生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>③よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>	<p>①限られた授業時数で、確かな知識と技能を身に付けるために、1時間の授業で学習する内容をより精査し、目標の明確な授業実践をする。</p> <p>①歯車の仕組みを知る授業では、生徒の疑問を中心とし、それを生徒が自主的に解決できるような指導展開を意識する。</p> <p>①小学校や他教科(理科、社会、数学、総合的な学習(SDGs)など)での既習事項を把握し、より発展させたり、関連付けて知識や考えを深めたりするような授業展開を意識する。</p> <p>②この授業で学習することがどのように生活や社会とつながっていくのか、題材の流れや生活や社会の問題解決を意識した授業実践をする。</p> <p>③ICT 機器を活用して、問題解決に向けての考察や次回の授業への課題などを積み重ねたポートフォリオの作成し、振り返ったり、共有したりすることで、生徒自身が学習を調整していく力や粘り強く学習に取り組む態度を養う。</p>

家庭	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>①衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。</p> <p>②生活の中で家庭科に関わる問題を見いだし問題解決に向かう力を養う。</p> <p>③家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする力と態度を養う。</p>	<p>①生活に関する基礎的、基本的な知識及び技術を身に付け、生活と技能のかかわりについて理解させる。</p> <p>②レポート作成やディスカッションを行い、発表する力を身に付ける。製作活動や調理実習等の活動を通し、基礎的な技術を身に付けるとともに、工夫創造する力を養う。</p> <p>③毎時間の目標を明確に掲示し、課題をもって主体的に取り組む姿勢をもたせる。刺し子の布巾の製作において、日本の伝統文化への興味をもたせる。製作活動等において、完成の見通しを持たせるとともに、個別に作業の説明や声かけを行う。</p>

(様式2)

外国語	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>①英語のきまりや特徴について理解し、実際のコミュニケーションにおいての話題について内容を捉えたり伝えたりできる。</p> <p>②コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、話題について要点を捉えたり、伝えたりできる。</p> <p>③外国語の背景にある文化への理解を深め、主体的に学習する。</p>	<p>①基本文の語順に課題があるため、まずは文の形を確認するための活動を取り入れる。簡単なコミュニケーション活動や文の音読を行う。その後、プリントや問題集で問題演習を行わせていき、書きながら、定着を図っていく。</p> <p>②表現することが全体としてよくできているので、長文を作ることができるように指導していく。読むことに課題があるので、長文の内容理解に関する演習問題を重点的に行っていく。</p> <p>③自ら学び、工夫していく姿勢は普段の授業の様子、特に表現する時間でよく見られるので、授業の雰囲気を変えないよう継続していく。定期的に課題として出しているノートまとめでも課題に対して工夫しながら作成しているので、継続して取り組ませる。</p>

特別の教科 道徳	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科や日常生活との関連を図り、より身近で自分との関わりについて考えられるような発問を工夫する。</li> <li>・自分の思いや考えを生徒同士で伝え合う場面を設定し、様々な見方や考え方を知ったり、自らの考えを深めたりする場面を設定する。</li> <li>・毎時間振り返り活動を行い、生徒自身が自分の変容に気づくことができるようにする。</li> <li>・教員が交代で授業を行い、新たな見方や考え方を知る機会を作るとともに、生徒の変容を複数の目で見取り、評価に対して共通認識をもつ機会とする。</li> </ul>

総合的な学習の時間	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>①檜原村に関わる探求的な学習において、課題解決に必要な知識及び技能を組み合わせ活用する力を身につけるとともに、檜原村の未来のためにできることを考える。</p> <p>②情報を整理しながら分析し、まとめたものを、相手を意識しながら表現している。</p> <p>③仲間との意見交流や課題の追求を通して、自分の生き方について考え、実践しようとしている。</p>	<p>①檜原村内外の様々な場所に行き、体験の中で檜原の利点や課題を発見するとともに、それを解決するために話し合いやICTを活用させる。また、SDGsをまとめた教材(パワーポイント)をいつでも活用できるように準備しておき、単元ごとに振り返る時間を設定することで、課題に結びつけて考えられるようにする。</p> <p>②情報をまとめる方法は、手書きとパソコンの中から自分で選択させる。その中で、自分にとってまとめやすく、相手にとって伝わりやすい方法を考えさせる。</p> <p>③生徒同士で話し合う活動を多く設定し、様々な意見を聞きながら考えを深められるようにする。また、課題に対する解決案については、効果と実現性を確かめる学習を取り入れ、実践することを想像できるようにする。</p>

(様式2)

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動 (学級活動)	<p>①多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動をする上で必要となることを理解し、行動の仕方を身に付けている。</p> <p>②集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることを実践している。</p> <p>③自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。</p>	<p>①自分の価値観や得意なことや不得意なことを発表し合うことで、多様な価値観や特性をもった他者と生活していることに気づかせる。</p> <p>①他教科や学校行事との関連を意識し、個人でできないことも集団になるとできることがあることや、集団活動に必要な心構えやマナーを考えさせる。</p> <p>②行事の企画やきまりの検討を通し、集団と自己の生活との折り合いをつけ、最適化する活動をする。</p> <p>③定期的なふり返りを通して、学校生活だけではなく、社会における生活及び人間関係をよりよく形成するための、生き方について考える。</p>

(様式2)

令和3年度 檜原村立檜原学園檜原中学校 第3学年 授業改善プラン

1 全国学力・学習状況調査、檜原村学力調査等の結果を踏まえた課題

国語	文章の読解は全体的に苦手意識がなく、難易度の高い文章も内容を理解できる生徒が多い。しかし、自分の思いや考えを言葉で伝えることに課題が見られる。「思考力・判断力・表現力等」の論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力、人との関わりの中で伝え合う力を高める必要がある。
社会	学習に対する関心が低く、1、2年時の学習内容の定着度にも影響している。小テスト等を行うと、以前よりも家庭学習等で知識の定着は図れてきている。それらの知識を生活と結び付けたり、他の学習内容を結び付けたりすることが難しい。既習内容の復習をこれまで以上に重点的に行い知識・技能の定着を図り、それらを結びつけた思考力・判断力・表現力の育成をすることが必要だと考える。
数学	基本的な計算問題を解くことについては苦手意識を持っておらず、計算力は十分身につけている。ただ、証明問題などの筋道を立て論理的に解く問題に難しさを感じている生徒が多くいるので、日々の授業から論理的に考察させていく必要がある。自分の力で考えさせる機会を多く取らせ論理的に考察できる力を身につけさせていく。また、考察した結果を自分の言葉で説明することができる力を育成する必要もある。
理科	1、2年生の内容の理解に差がある。そのため、実力テストでは思うような点数が取れていないのが現状。授業の進行状況を見ながら、1、2年生の復習をしていく。また、あまり生徒同士で学び合ったりといったことが積極的に行われていないので、実験や観察等で学び合い、深い学びにつなげていけるような手立てをこちらから提示していく必要がある。
外国語	語彙力を伸ばしていく必要がある。そしてそこから読解力の向上を図っていく必要がある。具体的には文中の特定の語彙の理解、英問英答、文章の概要把握が課題である。文法についても、各授業で扱う内容はその都度理解はできているが、定着に課題が残っている。

2 各教科等の具体的な授業改善策

□育成を目指す資質・能力 (①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等)

■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 (①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度)

	□育成を目指す資質・能力	■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	①社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ③言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	①・漢字を覚えるだけでなく、使うこと、身に付けることに重点を置いた活動を多く取り入れる。また、辞書学習を多く取り入れ、文章中の語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意させ、語句の確実な習得を目指す。 ・古典教材を使用し、何度も音読をさせたり、言葉の由来や変化について考えさせたりする活動を取り入れ、我が国の言語文化に親しんだり理解したりさせるようにする。 ②・スピーチや話し合い活動、作文などを書く活動を通し、聞き手(読み手)にわかりやすく伝わるような表現の工夫について考えさせる機会を増やす。その際に、根拠を明確にした上で文章を構成したり自分の考えを伝えたりするように指導する。 ・文章を読む活動では、要旨を把握すること、描写を基に捉えることを確実にし、内容の理解を正しく行えるよう指導する。 ③読書活動の単元を各学期に一回以上行ったり、参考図書を紹介を単元ごとに行ったりすることで、進んで読書をする態度を育てる。また、言葉の意味や働き、使い方等に注目させ、言葉への自覚を高め、日常的に我が国の言語文化を大切にする態度を育てる。

(様式2)

社会	□育成を目指す資質・能力	■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>①世界や我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>	<p>①学習内容、学習課題の確認をしっかりさせたうえで学習に取り組ませ、授業の最後では何を学んだのか、何ができるようになったのか、振り返りに取り組ませる。また小テストの回数を増やし、少しずつ知識量を増やしていく。また実際の生活を想定した課題を用意して、より実生活に沿った問いに取り組ませ、社会的事象に対する技能を身に付けさせる。また何度も繰り返し取り組ませ、技能を定着させる。</p> <p>②知識・技能を身に付けさせ、それらを結びつけて、社会的事象を考察したり、説明したりできるようにする。そのために思考ツール等を使い、生徒の考え方の整理を行って上で表現させられるようにする。</p> <p>③単元を貫く問いを設定する際、教師が設定するのではなく、生徒たちがその単元への疑問を抱き設定できるようにする。そして、その問いに対する答えを見つけられるように支援する。また生徒の実生活と結びつけ、イメージしやすくすることで学習への意欲を高める。単元テストや小テストについても学習の定着度に応じて課題を作成し、「できる」体験を多く積ませ、学習への意欲を高める。</p>

数学	□育成を目指す資質・能力	■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>①数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学的に表現・処理したりする技能を身に付けようとしている。</p> <p>②数学を活用して事象を論理的に考察する力、簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>③数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養う。</p>	<p>⑤ 知識を暗記させるのではなく意味や必要性についてしっかりと理解させ、既習の知識を他の単元と関連付けられるようにする。また、教具や ICT 機器などを活用することで視覚的にも理解できるような工夫を行っていく。</p> <p>⑥ 途中式を書かせる問題や証明問題など、筋道を立てて考えさせ、自分の考えを他者に分かりやすく説明させる機会を多く取っていく。</p> <p>③具体的に生活の中で数学がどのようなことながら活用されているのか考え、数学を身近なものとして捉えさせることによって興味・関心を抱かせる。また、数学的活動などを通して日常生活や社会の事象を数理的に捉えさせ、問題を解決させていく。</p>

理科	□育成を目指す資質・能力	■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>①自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>②観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。</p> <p>③自然の事物・現象に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。</p>	<p>① 1, 2 年生で学んできた実験方法などと被っている部分もあるので、振り返りを行いながら、実験を行ったり、データをまとめたりする。また、実験だけで振り返れないものは、振り返り用のワーク等を用いて、1, 2 年生の既習事項の復習を行っていく。</p> <p>②実験方法やデータの活用方法は、既習事項を活用して、深く考え、思考できるように指導していく。また、一人一台のタブレットを使って、観察したものを写真に収めたり、グラフを作成したりして、理解を深めていく。</p> <p>③観察・実験、問題演習や考察の内容などを総括して、粘り強く最後まで探求し続けようとしているかどうかを評価する。特に、1, 2 年生で学んできたことを応用する場面が増えるので、既習内容を最大限に生かせるように、定着が追いついてないところは、丁寧な振り返りをして、粘り強く課題に取り組むことができるように工夫する。</p>

(様式2)

	□育成を目指す資質・能力	■資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<p>①曲想と構造や背景、音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした表現に必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>②曲にふさわしい音楽表現の創意工夫や、評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p> <p>③主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の体験を通して音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯に渡って音楽に親しんでいく態度を養う。</p>	<p>①基礎基本確認として、小テストを行っていく。また、テーマ別調べ学習と発表に取り組みせ、音楽の多様性や背景などを理解させた上で、創意工夫を生かした表現に繋げる活動をさせる。「小さい声しか出せない・出さない」ことが課題となっているため、打開策として「身体でリズムを取りながら歌う」「実技テストを録音する」を試みた。変容がみられたので引き続き指導していく。</p> <p>②③音楽の美しさやよさを味わって聴くことを通して、DVDを活用し、視覚からも音楽のよさや美しさを感じ、評価しやすいよう指導を工夫していく。また、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組めるよう、様々なジャンルの音楽に親しませる。</p>

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
美術	<p>①対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>②自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</p>	<p>①様々な教科、単元、題材で学習してきた知識・技能を生徒自らが自然発生的に統合させ、より一層独創性の強い作品を生み出していく態度を目指す。そのための鑑賞活動では、「表現方法と表現の意図」「歴史的価値」「鑑賞活動から得た自分の思い」を生徒同士の対話により導く形をとる。</p> <p>②檜原学園9年間の集大成となる学年として、またこれから社会とつながるためのコミュニケーションツールとして、美術表現の幅を広げさせていく。そのために美術がどのように社会と関わっているのか、作者はどのように評価された人物なのかを掘り下げた授業を組み込む。また作品カードは、自らの願いや工夫点を具体的に書き込めるよう、事例を示して指導し、展示した際に他学年生徒へのヒントとなるよう指導する。</p> <p>③生徒の発達段階や習熟の様子、学年の雰囲気に応じた卒業制作のテーマやカリキュラムを組む。スクラップアンドビルド(創造と破壊)を恐れずに繰り返しながら作品に向き合えるよう、ふり返りカードなどの個人的支援を丁寧に行う</p>

(様式2)

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
保健体育	<p>①各種の運動の特性に応じた技能及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技術を身に付けるようにする。</p> <p>②運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>③生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>	<p>①授業のねらいを明確にして、生徒自らが主体的に見通しをもって粘り強く取り組めるとともに、本時で獲得させたい力を実感できるようにする。</p> <p>②学習カード等による振り返り活動を通して、自己及び仲間の課題発見と、その課題解決の方法を探究しようとする意欲を高めていく。</p> <p>②ペア学習や話し合い活動を通して、お互いの考えや意見を交わし合いながら、主体的に学び合えるような場をつくっていく。</p> <p>③ICT を活用し技能を視覚的に捉えさ、動きのイメージをもたせたり、自己の動きと比較したりしながら、知識・技能獲得のための学習意欲を高める。</p>

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
技術	<p>①生活や社会で利用させている情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。</p> <p>②生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、アクティビティ図等に表現し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>③よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>	<p>①生徒の生活に身近な「チャットアプリ」や「お掃除ロボット」を題材に設定することで、社会で活用されているイメージがしやすく、取り組みやすい授業を意識する。</p> <p>①ブロック型のプログラミング言語を活用することで、視覚的にプログラムの流れを理解できるように工夫する。</p> <p>②アクティビティ図を丁寧に書く指導をすることで、問題解決に向けて、ミスが少なく、効率的なプログラムの作成を促す。</p> <p>②問題を見出す視点を絞ることで、生徒が自らより明確な課題を設定し、具体的な解決方法を考えられる工夫をする。</p> <p>③振り返りシートにある生徒の記述に、次回への課題について具体的なコメントを追加して返却することで、生徒自身が作業や学習を調整する力を養うとともに、学習意欲を高めていく。</p>

(様式2)

家庭	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>①衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。</p> <p>②生活の中で家庭科に関わる問題を見だし問題解決に向かう力を養う。</p> <p>③家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとす力と態度を養う。</p>	<p>①生活に関する基礎的、基本的な知識及び技術を身に付け、生活と技能のかかわりについて理解させる。</p> <p>②レポート作成やディスカッションを行い、発表する力を身に付ける。製作活動や調理実習等の活動を通し、基礎的な技術を身に付けるとともに、工夫創造する力を養う。</p> <p>③毎時間の目標を明確に掲示し、課題をもって主体的に取り組む姿勢をもたせる。子ども向けのおもちゃの製作をし、家庭のはたらかしに関心をもたせる。製作活動等において、完成の見通しを持たせるとともに、個別に作業の説明や声かけを行う。</p>

外国語	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>①英語のきまりや特徴について理解し、実際のコミュニケーションにおいて話題について内容を捉えたり伝えたりできる。</p> <p>②コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、話題について要点を捉えたり、伝えたりできる。</p> <p>③外国語の背景にある文化への理解を深め、主体的に学習する。</p>	<p>①基本的な語彙の理解を図るために、毎回の授業で単語チェックを行わせる。それを繰り返す行うことで語彙力の向上に努めさせる。問題演習を重点的に行っていく、その単元で学んでいる文法の語順等の理解の定着を図る。</p> <p>②長文読解に課題が見られる。教科書の本文を読むことを基本にしながら、他の長文にも触れる機会を作っていく。ワークの長文のページも積極的に活用していく。</p> <p>③自分の考えを表現する、アイデアを出すこと、周囲と工夫しながら学習に取り組むことは個人、もしくは小集団であればよくできている。そのような場面で活動できるよう設定をしていく。</p>

特別の教科 道徳	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を進めるとともに、これまでの自己を振り返り、物事を多面的・多角的に考え、これからの自己の生き方についての考えを深めることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な資料（読み物資料、映像資料等）を活用し、生徒がイメージしやすいようにする。</li> <li>・様々な資料から様々な道徳的諸価値について生徒に考えさせ、班で意見交換する場面を設定する。生徒には様々な意見や考え方があることを感じさせ、自己の考え方の補充・深化・統合を図る。</li> <li>・授業の最後では、振り返りの時間を設定し自己の変容やこれからの生活に向けての考えをまとめさせる。</li> </ul>

(様式2)

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<p>①檜原村や近隣地域の自然や施設、人々との関わり合いから課題を見つけ、課題解決のために知識・技能を身に付け活用することができる。</p> <p>②体験したり、調べたりしたことを情報を整理しながらまとめたり、分析したりすることができる。</p> <p>③課題の追求を通して、より良く生きるために、自分の生き方について考え、実践しようとしている。</p>	<p>①校外での学習などを通して、檜原村と他の地域との相違点などに着目をさせ、檜原村の良さや課題点などを気付かせていく。課題解決の手立てを考える過程で、知識・技能を身に付けさせ活用させていく。</p> <p>②調べたこと・学んだことをタブレットや紙ベースにまとめ、自分なりの考えや意見を持たせたうえで、相手にわかりやすく伝えさせる場面を取っていく。</p> <p>③他者と共同して課題解決を図る活動や探究的な学習の時間などを多く取り入れていくことで、多様な考えに触れさせ機会を増やし、自己の考えを深めさせていく。</p>

	□育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動(学級活動)	<p>①多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けている</p> <p>②集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意志決定をしたりして実践している。</p> <p>③自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。</p>	<p>①話し合い活動等でのルールなどを確認しながら進めさせ、より良い集団活動を行うために必要なことを理解させながら進めていく。</p> <p>②学級会等の合意形成の経験を多くの場面で設定し実践させる。</p> <p>③あらかじめ、何をやるのか、ゴールはどこなのかを生徒に説明し、生徒が自主的に進められるようにする。</p>